

# 安念千恵子／牧川修一／丸山美由紀

北日本新聞社ホール/2017年7月2日

---

中国の有名処の絶句や律詩を種本に、自然を愛で酒を讚え友人との絆や人生を歌う。深い意味はあるのだろうが、内容まで詳しく吟味せずに出了とこ勝負、ステージの後ろ壁への写し出し、進行を辿る道しるべに、気休めに過ぎぬコトは自覚。

偶数曲はメゾソプラノ、赴くまま堂々たる朗唱、聴かせドコロを弁えにこやかにアピール、細かなトコロにこだわらず大道の歩み。作曲家に対する敬意と贊美、プラス以前オケをバックに歌った経験値の貯え。奇数曲はテノール、張りのある大きく響く声、そして真摯なスタンス。意味を確認しながら言葉は明確に、アナリーゼ万全にメッセージを歌い上げる。

伴奏のピアノ、好きなマーラーさんと終始相対峙。作曲家のオタマジャクシ、一般的なスキームに収まらない。縋る筈のメロディーライン、想定外のアップダウンや横滑り、思い描くイメージの混乱 プツツリ消失、不確かに寛き放されも垂れ込む、それを明確にする喜びにあふれ。

1曲目、唐突の大音声の朗唱、歌い手もピアノも音量を手探り状態、満員のホール、聞き慣れぬ音楽が飛び回る。聴き手も心の準備が整わず、試行錯誤のアンバランス、疑心暗鬼。2曲目以降、あわただしさが收まり、落ち着いて耳を傾ける本来に戻りホッ。

演奏会をノーガードで受け止めるのは失礼、適切なピアノ版見当たらず図書館で十数回聴く、ウロタエ拒絶は回避、少なくとも安心の中で聴くことができたのは幸い。(2017.7.3)

---

マーラー：大地の歌（ピアノ伴奏版）

---